九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

性別による労働力人口の差が福岡市の都市構成の予測に与える影響に関する研究 : 産業施設における従業者の構成比率及び事業所数の変化を中心に

林, 秋月

https://doi.org/10.15017/1470600

出版情報：九州大学, 2014, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名　：　林　秋月

論文題名　：　性別による労働力人口の差が福岡市の都市構成の予測に与える影響に関する研究
―産業施設における従業者の構成比率及び事業所数の変化を中心に―

区　　分　：　甲

論　文　内　容　の　要　旨

福岡市においては、情報ネットワーク社会の到来、環境問題の深刻化、経済と財政の改革、生活スタイルの多様化、コミュニティの崩壊、都心部の空洞化、建築・インフラの老朽化、交通渋滞の慢性化など、多様な都市政策上の課題が生じている。その為にこれからは、着実に進む少子高齢化や将来の人口減少を見据えると、バラバラな対症療法ではなく、将来の適正な都市規模を見据えながら、都市経営の視点に基づく持続可能なまちづくりを行う必要がある。

このような都市経営の立場から持続可能な都市将来像を予測する為に、福岡アジア都市研究所は 2004 年から2007 年まで、3 年の時間をかけて、土地利用の予測に着目して福岡市の将来の都市構造に関する研究を行った。その研究に基づいて、目指すべき福岡市の将来像とその実現に向けた具体的な仕組みづくりを提案した。しかし、現在までの研究は、唯に一括でハード的・量的な要素である土地利用のみを把握することを中心に行われてきたが、実際に都市の中で生活する生活者の属性的な視点、即ち、ソフト的・質的な要素に対する既往研究は全然行われていなかった。

質的要素を除いて、唯のハード的・量的要素である土地利用において研究を行われると、より適正な都市の将来像を予測することには限界性がある。ですから、本研究では都市の重要な構成要素である都市生活者の中で、主に労働力人口の性別比率を中心に具体的な考察を行い、それに福岡市の年齢・男女別人口の構成比率を間接的に考察することを加えて研究を行うことにした。このような一連の過程を通じて、ハード的・量的な要素以外のソフト的・質的要素が都市構造の変化に与える影響に対する更に具体的な把握ができ、より適正な都市の将来像が予測できようにする。

従って、本研究は、各産業の男女別従業者数と事業所数を分析して全産業の変化実態を明らかにし、性別によって影響を強く受ける都市施設を抽出し、GIS を利用して各々商業施設、厚生福祉施設の土地利用状況を明らかにする。次に、福岡市全域と区別における男女従業者数及び事業所数の経年変化を明らかにし、なお性別・年齢階級別の将来人口推計によって将来の商業施設、厚生福祉施設に従事する従業者数と事業所数を予測する。最後に、男女別従業者数と事業所数による商業施設、厚生福祉施設の変化傾向を定性、定量的に予測することによって、性別による商業施設、厚生福祉施設の都市空間構造の変化方向を提示することを目的とする。

本研究では、性別によって影響を強く受ける四つの都市施設、即ち、商業施設、厚生福祉施設、情報通信施設、住宅施設の中で、第三次産業の代表である商業と機械化システム設備の導入の難しい事業である厚生福祉事業に着目した理由としては、データ分析の過程で、商業施設は事業所数や男女従業者の割合が他の施設と比べて非常に高いので、それに比する雇用創出の可能性も高いと考えられ、厚生福祉施設は他の施設とは異なり、機械化システム設備の導入の難しいという事業の特性で、男女従業者による労働力の需要は今後ともさらに増加すると予想されることである。従って、女性人口の顕著に増加する福岡市におい

ては、商業施設と厚生福祉施設による都市構造の空間変化に特に注目を浴びる必要があると考えられる。

よって、商業施設と厚生福祉施設において性別による都市構造の具体的な変化方向を以下のように予測する。

商業施設：女性従業者による都市構造の変化方向を予測すると、西区、早良区、東区を中心とした郊外地域の鉄道と幹線沿い、駅周辺地区に既存している大型ショッピングセンターなどは再開発する見込みである。そして、女性人口の増加により商業機能が転換されており、これは都心部の商業施設の活性化を図り、都心部の集中化現象を促進する。男性従業者による都市構造の変化方向を予測すると、都心部の飲食・宿泊施設、販売施設の集中化現象が更につよくなり、将来には天神地区、博多駅周辺地区及び Canal City HAKADA の三点が連結されて一つの大きな帯状の複合商業地域を形成する。

厚生福祉施設：女性従業者による都市構造の変化方向を予測すると、生活域を中心とする都市中間地域では新たな単一型厚生福祉施設が建設し、都心部では既存施設に対する再開発が行われる。そして、女性の高齢者と従業者の増加により都市中心部を第一環状にし、城南区、西区、早良区を中心とした都市の中間地域を第二環状にする厚生福祉地域を形成すると考えられる。この様な現状は、都心部に集積する女性人口の分散化及び都心人口の均衡型年齢構造を保つ機能がある。男性従業者による都市構造の変化方向を予測すると、都市中間地域と博多区の鉄道、幹線沿いでは小規模の診療所や介護施設、老人ホームなどがたくさん建設される。